# 印刷会社が挑んだ「紙以外の印刷」から生まれたのはUVプリント&治具製作？

ホタルコーポレーションのプリント作業場。手前に見えるのが、ミマキエンジニアリングのUJF-706。1台で約1000万円するワイドプリンター。中央の棚にはアクリル製の様々な治具が収納されている。

7月25日、㈱ミマキエンジニアリングの大阪支店で開催された「インクジェットソリューションフェア」（主催・㈱モトヤ）の会場で、ある講演会が行われた。

タイトルは「実録 インクジェット事業部立ち上げ」。講演するのは、㈱ホタルコーポレーションの取締役本部長、福永進氏だ。

こうした展示会でメーカーがプリントシステムの紹介や活用法を説明するのはよくあることだが、今回の講演はプリントシステムを導入したユーザー自身がその体験を語るとあって、会場は満席となった。

多くの聴衆を前に壇上に立った福永氏は、「紙媒体以外への印刷に挑戦する時期だ、と弊社のトップから言われ、ミマキエンジニアリングのUVプリンター『UJF―706』を2台導入することが決まったんです。そこから2年経った現在、売上げは以前の10倍。ほぼ右肩上がりで成長しています」と話し始めた。さらに、今では大手通信会社からオリジナルスマートフォンカバーを月に1万個を受注するまでに成長したと言う。そこまで急躍進を遂げたホタルコーポレーションとは、一体どんな会社なのだろう。

## 紙媒体以外にも印刷に挑戦する時期

ホタルコーポレーションの親会社は、創業昭和29年の螢印刷㈱（大阪市西区・有木孝志社長）。

大手空調メーカーの取扱説明書や据え付け説明書の印刷などを得意とする印刷会社。その腕には定評があり、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会が主催する「日本マニュアルコンテスト2011」で最も優れたマニュアルに贈られる「マニュアルオブザイヤー」を受賞したほど。その同社がUVプリントに取り組んだのは、得意先から「自社商品の台車1000台に直接プリントして欲しい」と依頼があったことがキッカケ。その時、冒頭の「紙媒体以外の印刷にも挑戦する時期」だったことから、UVプリンターの導入を決定した。さらにUVプリンターは関連会社のホタルコーポレーションに設備を移し、全くの未経験からUVプリントへの挑戦がはじまった。福永氏は、

「最初は右も左も分からない状態だった。メーカーや問屋の協力を得て、一つ一つの問題をクリアしていきました」と言う。

例えば、UVプリントのキッカケとなった台車の場合。再生ポリプロピレンという素材そのものがUVインクと相性が悪く、インクが定着しなかった。そこで、強力な下地剤を用いることで、これをクリアした。その次に起こったのは「メディア詰まり」。UVプリンターのヘッドの熱で素材が膨張。ヘッドに擦れて商品にならなかった。これはランプの光量と治具を調整することでクリアした。

これで問題は終わらない。導入した「UJF―706」は厚物対象物にプリントできる機械。ヘッドと素材に距離があるとインクが霧状（ミスト）になって別の場所に付着することが稀にある。このミストが起こり、製品に付着して綺麗に仕上がらなかった。そこで、メーカーに様々な調整をしてもらい、最終的には静電気を除去する装置を導入することでトラブルが解消。無事UVプリントをこなせるようになったそうだ。

## UVプリント&治具も作ってくれる？

一つの商品を仕上げるだけでもこれだけの苦労がかかるUVプリントだが、同社は確実に仕事をこなし、そのスキルをどんどんとアップさせていった。そして今や同社屋内には、大型UVプリンター「UJF―706」が3台、小型UVプリンター「UJF―3042」が1台、レーザー加工機「スピリットGX60W」が1台導入され、日々オーダーグッズを生産している。レーザー加工機が導入されているのは、UVプリント時の治具を作るため。UVプリントはボールペンやゴルフボールなど、様々な形状を固定する必要があるため、必ず治具が必要になるのだ。

同社はUVプリントや治具製作のノウハウを、今度はOGBSの外注先として活用してほしいと言う。

「UVプリントはもちろん、自店で厚物プリンタを持っているOGBSで治具で困っているなら、その部分だけお手伝いすることもできます」と福永氏。しかも、一般的に治具製作を外注すると高くつくが、ホタルコーポレーションでは「簡単なものなら数千円といったレベルでお作りすることも考えています」。

同社ではUVプリントの手順を、①プリントできるか素材のチェック、②下処理剤の検討、③予算を考慮した治具製作、④色、濃度確認などをおこなってからプリントするという。さらに、プリント後は要望があればクロスカット試験、鉛筆試験などの剥離試験も行ってくれるので、安心して仕事を任せられるだろう。小ロットから数物までこなしてくれるUVプリントや、厚物プリントで困ったときの治具製作など、OGBSのパートナーとして心強い味方になってくれそうだ。

**■問い合わせ**
㈱ホタルコーポレーション
メール ogbs@hotaru-printing.com

写真右は螢印刷の本社オフィス。写真左は螢印刷の工場。大きなオフセットが何台も並んでいるだけでなく、大手空調メーカーのカタログが大量にストックされている。

ホタルコーポレーションの作業場にはUJF-706（写真下）が3台、UJF-3042（写真右）が1台、レーザー加工機のスピリットGX60W（写真右下）が1台。1社でここまでUVプリントの体制を整えているのも珍しい。UVプリンターの近くには送風式徐電機が置かれているなど、OGBSが見れば勉強になる部分が多々ある。これだけの設備が整っているので、外注先としてOGBSの頼れるパートナーになってくれるだろう。

同社のオリジナルセーフティサイン「My DogLife」（詳細は43頁）。